

地域包括ケアに関する取組み

中央区

令和5年3月末現在

〇概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】

中央区は、福岡における屈指の商業集積地である天神を擁し、数多くの商業施設が立地し、交通の便も良い。中央区の面積は15.39km²で7区のうち最も狭く、人口は本市7区のうち2番目に少ないが、人口増加率は2番目に高く、人口密度は7区の中で最も高くなっている。約9割の住民が集合住宅に居住しており、単身世帯が6割と多い。

【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】

高齢化率は市と比較すると低いが、年々確実に上昇している。また区内では高齢化率が40%を超える校区もあり地域差が大きい。65歳以上の人がいる世帯をみると、単身世帯が43.1%、高齢者夫婦のみの世帯が26.3%であり、その他の年齢層との同居率は市内で1番低い。またオートロックマンション居住者も多く、安否確認や日頃の見守りが困難となる事も多い。

【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】

日々の地域保健福祉活動からは、天神周辺を中心に近隣との関わりを好まず家族とのつながりも弱い独居高齢者が目立つ等、都市部が抱える高齢者支援問題がうかがえる。また、医療機関等は利便性もよく多数存在するが、他区からの受け入れを行っている総合病院が多く、介護保険事業所・施設ネットワーク等が少ない。

人口（人）	192,960
高齢者数（人）	37,442
高齢化率（%）	19.4
小学校区数 （自治協議会数）	12 (14)
いきいきセンター 圏域数	5

〇地域包括ケアに関する現状と課題

中央区では、専門職間の連携強化と、各団体での次世代の担い手育成を目的とした任意の専門職団体である「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」が、縦断的に地域ケア会議と関わり、協働してシステム作りを進めている。また、市民啓発として、専門職が地域に出向いて在宅医療の推進や介護予防等のテーマで出前講座等を実施している。

高齢者が集う場所としてカフェ等の場づくりは少しずつ進んではいるものの、出かけることを好まない方、人との関わりを好まない方への支援について心身の機能低下が問題化する前に働きかけをどうするかが大きな課題である。住民が元気なうちから人生の終い方について自ら考え、介護予防や介護の備えに取り組むための啓発が必要である。また中央区は単身高齢者の割合が高く、キーパーソンがいない高齢者の支援体制づくりや権利擁護の視点での支援体制の強化も必要である。

1. 令和5年度取組みの中で、特徴あるもの

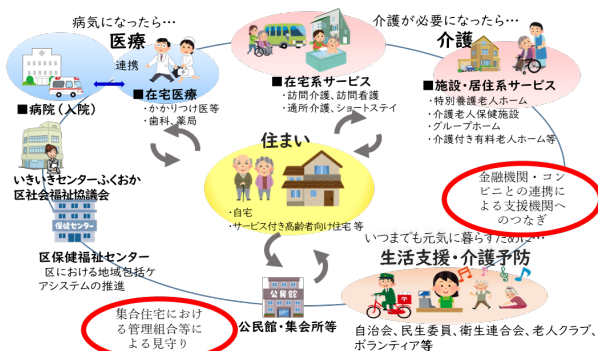
取組内容

〇中央区における地域包括ケアシステムの推進

(1) 中央区の認知症になっても住みやすいまちづくり事業

① 中央区の地域特性に着目した認知症の方への支援体制づくり

認知症の高齢者の孤立を防ぐため、日常的に高齢者と接点のある事業者との協働による見守りのネットワークづくりに取り組む。認知症支援の核となる人たちを中心に、会議体を立ち上げて、効果的な認知症支援の手法や、ネットワーク体制を検討する。認知症サポーター養成講座やステップアップ講座などを活用して支援者の育成を図り、支援体制づくりについて具体的な取組みを検討する。



② 高齢期に向けての備えの啓発

元気なうちから医療や介護など高齢期の様々な課題に備えるため、「人生100年時代に備える講座」と題して、講座を実施する。終活、人生会議、在宅医療、介護保険、高齢者の住まい、エンディングノート等について全6回開催する。



(2) 中央区専門職による啓発と地域連携の強化

① 「在宅医療と介護の出前講座」

医療と介護のまちづくりプロジェクトメンバーの専門職団体が、在宅医療・介護に関する市民啓発について地域向けの出前講座を実施する。

② 医療機関や介護サービス事業所等の地域連携の充実

各圏域や校区等で開催する、医療や介護、ネットワークづくり、高齢者の見守り等に関する講座や会議等へ、地域の医療機関や介護サービス事業所等からも参加や協力をいただき、顔の見える関係や連携体制づくりを進めていく。

〇健康づくり・介護予防の啓発と場づくり

(1) 健康パークステーション事業

市民に身近な公園にロコモ予防等につながる健康遊具を設置し、健康づくり・交流の場としての活用を推進している。

- 1号地：梅光園緑道（笹丘校区） H31.3月完成
- 2号地：福浜公園（福浜校区） R3.3月完成



(2) 介護予防の拠点づくり

よかトレ実践ステーションの創出、活動支援を行う。高齢者がコロナ禍でも健康づくりができるようよかトレの普及啓発を行う。

2. 令和4年度の取組状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

介護予防型個別支援会議以外の検討事例のほとんどが認知症や精神症状があり、キーパーソン不在で見守り体制等の整備、金銭管理や意思決定支援が必要な方が多かった。会議の約6割に地域役員の参加があり、地域の方と関係者がお互いの関わりや役割を共通認識できたことで、支援体制の構築が図れた。

個別支援会議開催状況 ・会議回数：34回（うち介護予防型個別支援会議12回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

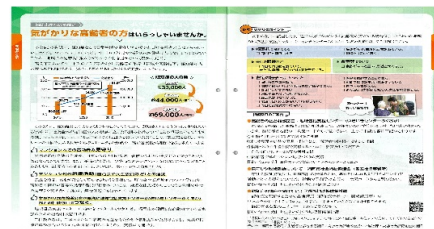
【認知症になっても安心して暮らせる地域づくり】
 ・「認知症をささえるやさしいまちづくり講座」の実施。
 ・認知症をテーマとした講座や手作りの寸劇などによる啓発。



【災害等をみすえた見守り活動】
 ・見守りマップを更新し、日頃からの見守りについて町内ごとに情報共有・意見交換。
 ・町内ごとに分かれ要支援者などに声掛け訪問する防災訓練の実施。



【集合住宅住民に対する見守りの啓発】
 ・NPO法人福岡マンション管理組合連合会の広報誌を通じて、見守り活動に対する啓発を実施。



高齢者地域支援会議 ・会議開催校区（地区）数：5校区（地区）、延べ回数：12回

開催状況 ・検討内容：高齢者の実態・課題についての意見交換、地域で高齢者を支えるための解決策の検討、取組み

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

■ 中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト会議

「中央区医療と介護のまちづくりプロジェクト」は、中央区地域包括ケアシステム構築に関して縦断的に関わり、各専門職種団体の情報共有・連携、今後の各種団体での人材育成を目的としている。また、在宅医療・介護に関する市民啓発や介護予防等について地域向けの出前講座も実施している。

【在宅医療・介護の出前講座】

テーマは、「在宅医療と介護」「口腔ケア」「低栄養予防」「病院受診やお薬のこと」「認知症」「筋力維持、福祉用具、住宅改修」など。専門職が地域に出向いて講座を実施する。

医療と介護のまちづくりプロジェクト会議 構成団体

医師会・歯科医師会・薬剤師会・理学療法士会・
 作業療法協会・医療ソーシャルワーカー協会・
 介護支援専門員連絡協議会・看護協会・
 訪問看護ステーション会・栄養士会



■ コロナ禍でも実施可能な多職種連携体制の整備

【圏域連携会議】

・3年ぶりに対面形式で開催。
 ・地域課題に沿って、多職種連携について意見交換を行った。テーマは「在宅支援に向けた支援者間の連携」「単身高齢者支援の多職種連携について」「高齢者虐待の通報のタイミングを考える」「事業所ネットワーク活動」など地域課題に応じた内容で実施。

【多職種連携研修会】

・全3回開催。Zoomを使用したオンライン開催（1・3回目）と対面開催（2回目）で実施。医療介護の多職種から、多くの参加があった。
 ・2回目は、在宅ケアネットワーク福岡中央と共催し、対面形式で開催。
 <内容>
 ・第1回 講演会「弁護士からみたACPの課題～在宅からはじめるACP～」116人
 ・第2回 「ポジティブな多職種連携のビジョン～もう“コロナだから”で終わらない。多職種で繋ぐ在宅医療・在宅介護～」講演会とパネルディスカッション 123人
 ・第3回 講演会「フレイル予防」62人

圏域連携会議 ・会議回数：4回

開催状況 ・内容：地域課題の共有、多職種間の連携や高齢者虐待の通報のタイミングなどについて意見交換。

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

【在宅医療と介護の出前講座】1回「自分の薬を知ろう」をテーマに、薬剤師より薬との付き合い方やフレイル予防について講話。地域住民31人参加。

【健康パークステーション】梅光園緑道や福浜公園の健康遊具を使って、地域住民への介護予防の啓発。

区地域包括ケア
 推進会議開催状況

・区地域包括ケア推進会議（1回）

・専門部会 ①在宅医療・介護部会と権利擁護部会の合同部会（1回）「地域包括ケアに関する取組状況、身寄りのない方の支援に関する調査報告、高齢期や緊急時の備えについて意見交換」②生活支援・介護予防部会（1回）「地域包括ケアに関する取組状況、これからの生活支援・介護予防の取組みについて意見交換」

・検討結果等：①健康づくり・介護予防の啓発と場づくり、②単身者・認知症の方への支援体制の整備（理解促進、支援者の連携体制、環境づくり）、③高齢期・緊急時の備えのサポート、④ブロック支援病院の機能を生かして病院と在宅医、医療・介護の多職種の連携体制強化

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
在宅医療に関する市民公開講座	講演「人生会議～エンディングノートの使い方」講師：終活サポートセンター 吉田所長 ハイブリッド開催で、来場38人、オンライン24人参加。
中央区ケアマネ会	年4回研修会を実施。区は12月に地域包括ケアに関する取組みや認知症に関する事業を案内。
圏域ケアマネ会	圏域ごとに5つのケアマネ会があり、お互いのスキルアップや地域貢献に努めている。
中央区訪問看護ステーション連絡会	ステーション連絡会に参加。ステーション同士の顔の見える関係づくりやスキルアップにつながっている。
事業所ネットワーク活動	第5圏域の事業所ネットワークを立ち上げ、今後世話人を中心に活動を進めていく。
弁護士と包括職員との勉強会	虐待や処遇困難の事例検討を行い、法律の視点から解決策がないか弁護士より助言を受ける。
消費生活センターと包括職員との意見交換	消費生活センターへの相談事例などをもとに消費者トラブルについて講話があり、意見交換を行った。
障がい者基幹相談支援センターと情報交換会	基幹と包括の活動状況の共有と事例検討を実施。互いの役割や連携について意見交換を行った。